



KENMEI ACADEMY

2017年度 学校評価

- I 幼稚園自己評価の結果の報告書
- II 小学校自己評価の結果の報告書
- III 中学高等学校自己評価の結果の報告書
- IV 高等学校通信制課程自己評価の結果の報告書
- V 学校関係者評価

学校法人 賢明学院

平成29年度(2017年度) 自己評価の結果について

学校法人賢明学院 賢明学院幼稚園

1, 本園の教育目標

—豊かな心, たくましく生きる人間性の基礎を育てる。—
カトリック精神に基づいた教育によって, 神と人々の前に誠実に人格を育てることを目標とする。
子どもたち一人ひとりの個性を大切に, 子どもたちの持つ可能性を最大限に引き出し, 愛する心,
祈る心, 感謝する心を養い, お互いの気持ちを大切にできる子どもたちを育成する。

2, 本年度, 重点的に取り組む目標・計画

子どもたちの自主・自立の精神を育てるために, 子どもたちが自ら進んで物事に取り組み, 満足感・達成感を味わう教育を実践する。

3, 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目・目標	取り組み状況
1, 宗教教育 祈りとともに育つ。 ○友だちと一緒に活動する楽しさを味わう。 ○子どもはお祈りができるようになる。	・友だちを大切にすることを日々の実体験や視聴覚教材を使って指導する。 ・朝や帰りの祈りなど, 毎日取り組み, 発展的に自分の言葉で共同祈願を考える機会を設ける。
2, 自主自立の保育 ○園生活を通して子どもは生活習慣が身についている。 ○子どもが主体的に活動しようとする意欲を育てる。	・個々の様子を観察し, 子どもが自分でできるように援助をした。 ・活動に取り組む時間を確保したり, 環境の整備を行ったことで, 最後まで取り組む姿勢が身に付き, 達成感を味わう姿が見られた。
3, 未就園児クラスの充実と満3歳児保育への移行 ○子育て支援について積極的に取り組む。	・未就園児クラスの保護者には子育てサポートを行い, 満3歳児の入園時には事前に導入保育を行うようにしている。 ・満3歳児を受け入れることによって, 子どもたちの中に新しく加わった子どもに対する気遣いや優しさが芽生えた。
4, 英語教育を通して国際的関心を養う。 ○英語に親しみ, 楽しみながら学んでいる。	・子どもが積極的に外国語活動に取り組めるように, 教材の色彩やイラストなど視覚からも学べるようにしたことで, 子どもたちにはごく自然に英語に慣れる環境となった。

<p>5, 教員は資質を向上させるため、研鑽する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・モンテッソーリ教育の実践者である講師を招き、研修を行っている。 ・すべての教員が子どもたちに、教具の提供ができるように学び合っている。 ・毎日の職員終礼で、子どもの様子を振り返り、共有し、保育者としての観察力を高めている。
<p>6, 保護者への対応 ○適切で正確な情報を発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの日々の活動を観察し、連絡帳で子どもの成長や日々のエピソードなどを報告し保護者との情報交換をできるようにした。 ・保護者からの相談があった場合には、迅速に対応する。

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>基本的な生活習慣の確立を目指し、日々の保育内容を見直してカリキュラムを立てたことで、子どもは身の回りのことを進んでしようとする姿が見られた。</p> <p>次期幼稚園教育要領の改訂に向けて理解を深め、子ども一人ひとりをよく観察してそれぞれの発達段階に即した個別の指導を行っていきたい。また、今後も子どもの様子や保育の中でのエピソードなどを家庭に伝え、家庭と連携を密接に取り、より充実した保育を提供できるように努めていきたい。</p>

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
<p>自主自立の保育の継続</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが興味をもち、様々な活動に自主的に挑戦しようとする気持ちをさらに育てる。 ・個々の記録を取り、子ども一人ひとりの成長に沿って「やってみせ」「共に行い」「一人でさせてみる」など、きめ細かい指導を行う。
<p>保護者への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長や保育の取り組みなどを発信する。 ・保育の様子を参観する機会を設ける。 ・参観後には子どもの成長の指標を設けたアンケートを実施し、今後の保育の充実につなげる。
<p>体力の増進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「基本の運動」へつなげる遊びをさらに取り入れることで体を動かす機会を作る。
<p>宗教教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おつけものデーを通して世界の困っている人に目を向け、いたわりの気持ちをもつ。 ・創立者の「よいことは何でもしなさい」の言葉を受けて、「私にできるよいこと」を考え、実践する。

6 学校関係者の評価

<p>別紙の通り</p>

7 学校会計について

<p>公認会計士監査により、無限定適正意見が表明されている。</p>

2017年度 賢明学院小学校 自己評価の結果報告

学校名：賢明学院小学校

評価責任者：校長 北村 昌江

2017年3月9日 報告

	Plan		Do	Check		Action
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為に具体的取組	◆自己診断	◆目標到達度 ◆実際到達度	◆今後の改善方策
1	カトリック精神の下「宗教教育」の推進と充実	①祈りを通じて神への畏敬の念を養おうとしている。	①朝の放送等を活用し、祈りで始まり祈りで終わる礼節を重んじた学校生活を送る。 ・ミサや祈りの集いを通じて神様への畏敬の念が持てるように指導する。	①神様に心を向け、祈ることができている児童は、1・2・5年95%以上に対し、3・4年85%、6年70%にとどまる。 保護者の祈りや宗教教育の評価は高く、90%が心の教育として認めている。	◆目標到達度 100% ◆実際到達度 88%	①日々の学校生活の中で、朝や帰りのお祈りを心静かに行えるように今後も指導を強化する。高学年がミサや祈りの集いの準備に関わり、行事への参加を促す。高学年には、本校の伝統を守る責任感を育てるように指導する。
		②周りへの感謝の心を育てようとしている。	②全校児童を対象にマンデーアッセンブリー（全校生対象の宗教的な集い）や児童朝礼で宗教的な講話や指導を行う。	②マリー・リヴィエについての理解度は、2・5年は、80%だが、その他の学年は、65%前後にとどまる。創立者の思いを児童に伝える機会をもっと増やしたい。	◆目標到達度 100% ◆実際到達度 70%	②宗教の時間や創立者の帰天ミサなど、繰り返し創立者について聞く機会を設け理解を深める。宗教のカリキュラムに創立者についての単元を明記し、系統的に理解を深めていく。
		③感謝を奉仕の心へつなぐように指導している。	③他者のために何が出来るか児童が考えて実際の活動につなげる（募金活動、交流等）。	③進んでよいことをする児童は、1・2・4・5年は、90%だが、3年83%と多くの子どもが奉仕を実践している。6年は70%にとどまった。	◆目標到達度 100% ◆実際到達度 86%	③多くの児童は、奉仕の心で学校生活を送っている。児童会やリヴィエジュニアの活動をさらに活発にし、奉仕の精神を全校児童が共有する。
		④式典や行事を通じてカトリック精神を体験的に感じている。	④神様と向き合う黙想の時間をもち、児童が自分を見つめる機会とする。 ・宗教行事において、高学年の児童の役割を明確にして主体的に関われるようにする。	④ミサや集いを大切にしている児童は、1・2・5年が95%だが、3・4年80%強6年は68%にとどまる。全児童が関心を持つ行事の在り方を検討したい。	◆目標到達度 100% ◆実際到達度 86%	④児童は、上記の①のように宗教行事に参加することで、神様の教えを心にとめて、「自分のできるよいこと」をいつも意識する心を育てたい。
2	学校生活の核となる安心できる学級の実現	①教員のきめ細やかな指導や児童に寄り添う学級経営によって楽しい学校生活が送れるように支援している。	①生活指導においては、迅速できめ細やかな対応ができるように教員がチームで取り組む。朝の会・帰りの会の日直活動・給食の配膳や清掃の指導を徹底する。	①90%の教員は、学年だけでなく、教科や分掌のつながりを持ち、チームで教育活動に取り組むことができた。	◆目標到達度 90% ◆実際到達度 90%	①朝の会・帰りの会・掃除の時間など、児童が落ち着いて行動できる環境作りに、今後も努める。
		②いじめの撲滅を目指した生活指導が行われている。	②児童の日々の変化や些細な出来事に目を向け、アンケートも活用して、いじめの早期発見に努め、迅速に対応する。	②いじめのない学級経営に努めている教員は100%で、いじめの早期発見、早期対応90%にのぼる。一方、学校が楽しいと答えた児童は80%にとどまる。教員の迅速で細やかな指導が一層望まれる。	◆目標到達度 90% ◆実際到達度 90%	②毎月、いじめ防止アンケートを実施し、児童の実態把握に努める。学級での些細な出来事を、敏感に感じ取り、迅速に対応する。他クラスの取り組みも共有し、自クラスの対応に生かす。学校での出来事は、迅速に保護者に連絡する。
		③衛生的な配膳を行い、安全な給食を実現する。 食に対する感謝の心を養うことができている。	③配膳活動を通じて、食べ物を大切に扱う態度を育成する。 ・残食を減らすように工夫し、食べ物への感謝の心を育む。	③給食指導は、80%の教員が丁寧に行っているが、残食が多いのが現状である。児童の給食への満足度は、1～5年平均75%にとどまった。保護者の満足度は1年生は、80%だが、他学年は平均60%にとどまる。	◆目標到達度 80% ◆実際到達度 70%	③残食が多いことから、食べ物の好き嫌いがあることが予想される。保護者の満足度が、高まらない理由を調査する必要がある。 例 費用の適正さ、給食内容、衛生面の問題、子どもの好み等についてアンケートを実施する。

3	教師の指導力向上による授業改善	①国語・算数を中心とした授業の質が向上している。	①児童に分かる授業作りをめざし、教材研究に努める。朝読書を徹底して実施し、読書目標を持って取り組むことで、読書の習慣を身につける。	①児童に分かる授業作りについて100%の教員が努めている。先生の話が分かり易いとした児童は、1～5年は約80%、6年は64%にとどまった。子どもの視点で授業を考えるようにしたい。	◆目標到達度 90% ◆実際到達度 78%	①教員全員が授業を公開して教員同士が互いに授業力を高めることは、今後も継続する。その際、児童の視点に立った授業作りになっているか検討する。
		②宿題やノート指導など学習習慣の基礎を強化している。	②宿題忘れの児童の指導を行う。 ・板書をノートに写すときの注意やメモの取り方を指導する。	②宿題を丁寧に見ていると答えた教員は、95%だが、児童の評価は、1・4・5年は83%だが、2・3年は77%、6年65%であった。	◆目標到達度 90% ◆実際到達度 78%	②宿題の出し方やノートの点検の仕方を教員同士が共有する。長期休暇中の宿題は、発達段階に合わせて適切な内容や分量とする。
		③覚える英語から使える英語教育へと発展させ、英語力を向上させている。	③英語教育の充実のため、公開英語研究授業を実施し、授業改善に生かす。 ・英語のモジュール学習を実施し、英語力の向上を図る。	③英語で挨拶や簡単な会話ができると答えた児童は平均77%で、保護者の評価も平均76%であった。もっと、英語を使う場面を増やしたい。	◆目標到達度 90% ◆実際到達度 76%	③学習としての英語のモジュール学習の内容や成果について検討を加える。英語の話す・聞く力を中心に、評価の基準を明確にし指導に当たる。
		④情報機器を活用し、効果的な授業が展開されている。	④タブレットの活用推進、各教室の情報機器環境の充実(41台3セットのタブレット配備)、プログラミング学習の試行的な取り組みを実施する。	④教員の85%がタブレットを活用している。ICT機器を使った授業が分かり易いとした児童は、1～5年は、90%だが、6年は、80%にとどまった。	◆目標到達度 90% ◆実際到達度 85%	④タブレットを活用した学習の方法だけでなく、効果について振り返る。プログラミング学習や、調べ学習などが容易にできるように試行しながら検討を重ねる。
		⑤カリキュラムを確認しながら授業を行い、目標の達成に努めている。 新指導要領に向けたカリキュラムの作成に取り組む。	⑤授業の進捗や目標を確認し、計画的に授業を進めることができている。 新指導要領に向けた情報収集や、カリキュラム作成に向けた準備を行う。	⑤カリキュラムを確認しながら授業を行っている教員は95%で、新指導要領に向けたカリキュラムの検討も90%の教員が積極的に取り組んでいる。	◆目標到達度 90% ◆実際到達度 90%	⑤新指導要領に基づいた各教科のカリキュラム作りができたので、それを基に各学年の年間指導計画も作成した。2018年度は、カリキュラムと学年の年間指導計画を照らし合わせて試行する。
		⑥児童自ら考え発言し、分かり易い言葉で伝え合うことができる授業を行う。	⑥学習活動の中で、児童が進んで意見を発表し、互いが学び合う授業ができるように指導する。	⑥児童が意見交換しながら学習する授業を85%の教員が心がけているが、自分から進んで発表している児童は、1・5年80%、2年74%、3年62%、4年44%、6年32%であった。発表力の育成が課題。	◆目標到達度 90% ◆実際到達度 62%	⑥発表が苦手な児童は、まず考えを書かせてから自信を持って発表できるように指導する。教員は、児童が失敗を恐れないような学級作りに努める。
4	生活指導の強化	①挨拶日本一をめざし、立ち止まって挨拶している。	①立ち止まって行う「賢明の挨拶」を徹底して指導する。(朝の校門、校内での挨拶)	①賢明の挨拶ができている児童は、1・2・3・5年は90%だが、3年82%、6年78%にとどまった。今後も100%をめざして継続して指導したい。	◆目標到達度 100% ◆実際到達度 86%	①児童会を巻き込んで挨拶運動を展開し、挨拶への意識が高まってきた。今後は、いつでも、どこでも、誰にでも挨拶できるように指導する。
		②集団での移動は、沈黙で移動できている。	②賢明の沈黙移動(並んで静かに移動)を指導する。(教室やホールへの移動等)	②沈黙移動ができているとした児童は、5年が93%、1・2年が80%、3・4年が70%、6年が45%であった。	◆目標到達度 90% ◆実際到達度 73%	②賢明の沈黙移動を実現するには、担任の指導によるところが大きい。教員間で指導方法を共有し、全学年で指導する。
		③登下校の安全とマナーについて指導し、児童が気を付けて登下校できている。	③通学路や公共交通機関において、周りの方々への気配りの大切さを指導する。 ・賢明の子としてのプライドを持って行動するように指導する【服装・言葉遣い】	③安全に気をつけ、マナーを守って登下校している児童は、5年が97%、1・2・4年90%、3・6年が80%であった。通学路の安全配慮に関して保護者の評価は、1・3・5年は84%、4・6年は76%、2年が65%であった。	◆目標到達度 80% ◆実際到達度 87%	③下校の安全やマナーについて、全校集会や学年集会等で指導する。低学年は交通巡視員等の外部講師も招聘し、児童自ら交通安全を意識して下校できるように指導を行う。

2017年度 自己評価の結果の報告書 (2018.3.31)

学 校 名：賢明学院中学高等学校

評価責任者：校長 大原 正義

	P l a n		D o	C h e c k		A c t i o n
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆目標到達度 ◆実際到達度	◆今後の改善方策
1	カトリック精神のもと、教職員全員で「宗教教育」を進める。	①建学の精神や教育方針を生徒保護者に伝えている。 ②学校には悩み事などの相談にのってくれる友達や先生がいる。 ③生徒は他人へのやさしさや思いやりを持って学校生活を送っている。 ④学校生活は楽しく有意義で満足している。	①各学年保護者集会の校長挨拶で、建学の精神や教育方針について触れていく。 ②中1のHR合宿等で人間関係を築く配慮を担任団を中心に進める。 ③宗教教育や人権学習を通して、相手の苦しみや悲しみに気付ける感覚を養う。 ④生徒が自分は大切にされていると実感することによって、満足感を向上させる。	①中学では95%、中でも中1は98%と過去にない高い数字となり、明確に伝えられている結果となった。 ②全体では昨年より1P(ポイント)上がったただだが、中1では91%と大きく改善が見られ、HR合宿などの成果が表れた。 ③中2が76%と一番低いが、それでも中学全体では86%と数字を伸ばしている。昨年、一昨年より15P前後増えている。 ④高2が80%を切ったが、どの学年も昨年よりも高い。中でも中3は96%と充実した毎日を送っている。	◆目標到達度 ①95% ②90% ③85% ④90% ◆実際到達度 ①90% ②84% ③83% ④86%	①BULLETIN(校内機関紙)やホームページがもっと読まれるように広報する。 ②行事を通して人間関係が深まるよう、教員が意識して指導する。 ③自分の周りだけでなく、社会や世界に目を向けていけるような国際教育を目指す。 ④いじめの早期発見、解決を図り、人間関係で悩む生徒をしっかりとフォローする。
2	相手への敬意、相手を思いやる気持ちから生まれるマナーの実践。	①生徒は気持ちよい挨拶が誰にでもできている。 ②生徒は学校のルールやマナーを守っている。 ③服装・頭髪・遅刻・持ち物などの生活指導を行っている。	①生徒会だけでなく、クラブ員が挨拶を率先できるように顧問が指導する。 ②昨年はできなかった月間目標を決めることを実行し、ルールを守る生徒を育てる。 ③生徒が変わったと保護者が実感できるように、教員が一つひとつ丁寧に同じ指導を続ける。	①保護者の評価は86%と昨年より少し向上した。しかし、目標値には遠く、さらなる運動が必要である。 ②生徒自身の評価は76%と年々向上している。学年のばらつきが大きく、中3は93%だが高1は65%と差がある。 ③保護者の評価は83%だが、中学では大きな改善が見られ9P上がった。しかし、今年も教員の90%台とは開きがあり、教員の指導が浸透していない。	◆目標到達度 ①95% ②85% ③90% ◆実際到達度 ①86% ②76% ③83%	①さらに生徒会やクラブ員が中心となり、挨拶運動の輪を広げていく。 ②クラス、学年の指導を差のないようにして、ルールやマナーを守る生徒を育てる。 ③賢明の生徒として誇りを持つことによって、自律する生徒を育てる指導を教員が続ける。
3	学習における授業を第一とし、教科指導力のアップから生徒・教員が共に伸びる。	①チャイムとともに授業が始まり、生徒が授業に集中している。 ②分かりやすい授業のための工夫がされている。 ③生徒が学習環境に満足し、意欲的に学習に取り組んでいる。	①教員が100%チャイムが鳴る前に教室にいることを徹底させ、生徒が授業に向かう姿勢を作る。 ②教員がいつも生徒の理解度を確認しながら、読みやすい字で分かりやすい板書を心掛ける。 ③教員が、「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング)を取り入れた授業を積極的に公開して、事後研究などで忌憚のない意見交換を行う。	①目標値までは遠いが生徒の評価も85%と去年より14Pも上がった。特に中学では95%となり、やっと態勢が整ってきた。教員の98%がチャイム前に教室に入っていると自己評価。 ②板書に関する生徒の評価は83%だが、教員は90%が分かりやすい板書を心がけている。ここでも中学は89%と大きく改善が見られ、教員の数字に近づいている。 ③「主体的・対話的で深い学び」に対する生徒の評価は学年の差が激しい。中3の93%に対し、高1では50%である。教員自身は80%の評価である。高校全体でも中学と比べ20Pの差があるので、まだ講義形式中心の授業が行われていることになる。	◆目標到達度 ①95% ②95% ③80% ◆実際到達度 ①85% ②83% ③68%	①生徒全員が授業に集中するために、学習へ向かえない生徒を丁寧に指導する。 ②板書が中心になる授業が減ることから、だからこそ読みやすい字を書き、内容を工夫し続ける習慣を教員が身に着ける。 ③「主体的・対話的で深い学び」の授業を単元のどこかに必ず入れる指導計画を立て実行する。
4	生徒一人ひとりの自己実現のサポートとしての進路指導を実践する。	①生徒一人ひとりにきめ細かい進路指導、学習指導がなされている。 ②授業が高校進学や大学進学に役立っている。 ③進路結果が生徒の才能の開花に結びついている。	①進路指導に対して生徒個別の目標を定め、それに向けて教員の担当を決め指導する。 ②教員が大学入試問題を自ら解き、生徒が問題に取り組む時に具体的な指導をする。 ③国公立大学の実績を上げるには5教科全ての力をつけるように指導する。	①生徒たち自身が進路を考える機会があるかは79%であるが、中学が過去2年は50%台だったものが81%まで向上した。これは各学年のキャリア教育の成果が表れたと見てよい。 ②中1中3が96%と過去にない数字を出したが、高3は昨年の89%から82%に落ちてしまった。 ③過去最高の進学実績をあげることができた。生徒のたゆまない努力とチャレンジ精神、そして教師の熱心な指導の結果である。	◆目標到達度 ①90% ②95% ③国公立15名など ◆実際到達度 ①79% ②79% ③国公立12名	①中学生の頃から進路に向けての意識を高め、新しい時代にふさわしい将来を考えさせる。 ②今後求められる力を生徒に付けるため、教員が授業を主体的活動へ方向転換していく。 ③生徒に進路へ向けて早い段階から意識付けをし、受験への取り組みを早めていく。

	P l a n		Do	C h e c k		A c t i o n
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆目標到達度 ◆実際到達度	◆今後の改善方策
5	保護者との密な連絡と意思疎通を図る。	①学校で問題が起こってもそれが解決している。 ②担任など一人に対応するのではなく、チームで対応している。 ③学校全体で問題に取り組み、統一した指導ができています	①報連相の徹底と丁寧な初期対応を担当者と管理職が協力して問題解決に取り組む。 ②学年団で情報を共有し、担任を中心にチームで保護者に対応する。 ③教員同士の協力関係を築くために、実務的な内容だけでなく、同じ方向へ向かえる話し合いの時間を作る。	①報連相に対する教師の評価も97%と高く、保護者も学校の危機管理に関して今年も92%と評価されている。 ②保護者からの相談についての対応は88%だが、中学の93%に比べ高校は8P低かった。 ③教員同士の協力という点で生徒の目は70%と今年も厳しい。それでも昨年よりは9P向上し、中でも中1は96%と過去最高の評価だった。	◆目標到達度 ①95% ②95% ③80% ◆実際到達度 ①92% ②88% ③70%	①初期対応で問題解決を図るために、担当者がその日の内に行動を起こす。 ②学年団や顧問団で情報を共有し、指導に齟齬が出ないようによく相談する。 ③教員が日々の教育活動に追われるだけでなく、プロフィール(目指す生徒像)を意見を出し合って共通の目標とする。
6	生徒を大切にすこまやかで温かい生徒対応をする。	①生徒が笑顔で学校生活を送っている。 ②生徒が素直に教員の指導を受け入れる関係が築けている。 ③学校の中に生徒一人ひとりに居場所がある。	①教員が生徒の小さな変化も見落とすことなく、気にかかればすぐに声かけをする。 ②生徒に尊敬される教師になれるよう、まず服装、言葉遣い、笑顔を意識する。 ③教員が生徒の人間関係をよくつかみ、必要な時に適切なアドバイスをする。	①良い友人関係を築いているかの評価は90%と高かった。中でも中1は96%とうれしい数字になった。 ②教員が生徒との信頼関係を築くための声かけ、服装、言葉遣いなど、自己評価はどれも90%台と高い。 ③居場所があるかは90%であるが、去年と比べ中学が10P上がったのに対し高校は3P下がった。	◆目標到達度 ①95% ②90% ③95% ◆実際到達度 ①90% ②92% ③90%	①毎月実施している「いじめアンケート」の情報を見逃すことなく生徒を見守る。 ②教員がさらに言葉遣いに細心の注意を払い、生徒から尊敬されるよう努める。 ③学校に來れなくなる生徒に対して、親身な指導をまず担任が心がける。
7	生徒会活動が生徒たちの自主的な活動の場になるよう指導する。	①生徒はクラブ活動・委員会活動に積極的に参加している。 ②生徒会活動がボランティアなど他者に目を向けられている。 ③クラブ指導が活発で、生徒も生き生きとしている。	①秋麗祭の内容を生徒が達成感をより得られ、より文化的なものに変更する。 ②粗食がボランティア活動であることを啓蒙すると共に、様々なボランティアの機会を増やしていく。 ③それぞれのクラブに合った練習時間、内容、施設を見直し、本校らしいクラブ活動にする。	①生徒自身の評価は85%であるが、中学高校共に3年生が最も高く2年生が最も低い結果となった。 ②昨年と比べ20Pも向上したが、学年で数値のばらつきが目立った。中3が87%と最も高く、高1が58%と最も低かった。学年の取り組みの差が表れたのかもしれない。 ③クラブ活動に対する保護者の評価は79%で例年とほぼ同じである。ただ、クラブ活動の中心になるはずの高2が68%と最も低い数字になったのは原因究明する必要がある。	◆目標到達度 ①95% ②80% ③95% ◆実際到達度 ①85% ②73% ③79%	①秋麗祭を生徒主導の形をより深めながらも、内容の見直し、発展を図る。 ②クラブでの自主的な活動が始まっているが、全校生が参加できる企画を考え、何かのボランティア活動をしたと言えるようにする。 ③教員の勤務時間の見直しなど、数々の制限が増える中、本校らしいクラブ活動を作り上げる。
8	大学入試改革や新指導要領への対応をいち早く取り組んでいく。	①情報の収集や対応がいち早くなされている。 ②新しい取り組みがなされ、授業が進化している。 ③学院全体の教育が系統的に行われている。	①次期指導要領への移行を各教科で進め、先行実施できるように準備する。 ②生徒が自主的に予習復習できる本校独自の動画教材「アイキューブ・ムービー」の充実を図り、本校の特色とする。 ③キリスト教的価値観を「特別な教科 道徳」の中にどう取り入れるか検証する。	①教員自身が教育制度の改革に取り組む姿勢の評価は80%とまだ低い。研修内容の共有も72%にとどまった。 ②授業の内容を改善しているという教員の評価は100%であった。教員自身の努力の表れであろうが、その改善が生徒に実感としてあるかは考察していかなければならない。 ③中高に留まらず学院全体の系統化は呼びかけられているが、目に見える形での成果はまだこれからである。	◆目標到達度 ①85% ②85% ◆実際到達度 ①80% ②100%	①高校の指導要領も発表されたので、本格的に学校全体も教科も準備を進める ②ICT活用教育は進んでいるが、教員の個人差がある。それを改善するためにも教科内で研鑽を深め、授業公開を積極的に行う。 ③英語と宗教(道徳)の指導が系統的に行われるよう、カリキュラム作りに取り組む。

	P l a n		Do	C h e c k		Action
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆実際到達度	◆今後の改善方策
1	カトリック精神のもと、教職員全員で進める「宗教教育」。	①建学の精神や教育方針を生徒保護者に伝えている。 ②学校には悩み事などの相談のつてくれる友達や先生がいる。 ③生徒は他人へのやさしさや思いやりを持って学校生活を送っている。 ④学校生活は楽しく有意義で満足している。	・保護会の開催や保護者参加型の特別活動を取り入れるなど通信制課程の教育活動について保護者への理解を深める必要がある。 ・三者面談や個人面談の回数を増やし、生徒・保護者にとって相談しやすい環境づくりをしていく必要がある。 ・スクーリングやレポート、テスト以外の教育活動においても教職員の共通理解を深める。	肯定的評価が 92%であった。建学の精神や教育方針などおおむね理解しており、保護者参加型の特別活動を取り入れた。 ①37% ②56% 肯定的評価が 93%であり、昨年の 89%を上回った。今後も心のケアが必要な生徒の指導を検討していく。 ①37% ②52% 肯定的評価が 89%となった。思いやりを持った生徒を育てるための指導機会を増やしていく。 肯定的評価が 71%となった。学習サポートや特別活動を充実させ、満足度を上げていく必要がある。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ④90% ◆実際到達度 ①92% ②93% ③89% ④71%	学年別の保護者会の開催や保護者参加型の行事を実施することにより、教育活動の理解を促進する。 宗教行事への参加報告書を作成し、生徒・保護者に宗教行事の理解を深める。 三者面談や個人面談の回数を増やすとともに面談項目を作成し、生徒・保護者にとって相談しやすく、生徒指導についての統一をはかる。
2	相手への敬意、相手を思いやる気持ちから生まれるマナーの実践。	①賢明の生徒は挨拶が良くできている。 ②生徒は学校のルールやマナーを守っている。 ③服装・頭髪・遅刻・持ち物などの生活指導を行っている。	・学校説明会などの参加者に対して元気よく挨拶ができるよう指導し、また教職員自らが生徒に対して挨拶していく。 ・全日制に準ずる規則があることを念頭に、ルールを守れる生徒指導を実行していく。 ・生徒の個々に応じた対応を心掛ける。	①24% ②56% 肯定的評価が 80%となった。スクーリングや学習サポートなど教職員から挨拶をしていく必要がある。 昨年度 100%の項目であったが、今年度は 88%の結果となった。生徒数も増え、様々な生徒のニーズに応えつつも、一貫した生徒指導をする必要を感じる。 肯定的な評価が 89%である。次年度以降は生徒指導についての方針を再検討していく。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①80% ②88% ③89%	生徒登校日にLHRを月に2時間取り入れ、クラスにとって必要な生徒指導を行う。 担任が中心となってクラスの情報や生徒の情報を保護者に連絡し、個々に応じた生徒指導を実行していく。
3	学習・授業を第一とし、教科力のアップから生徒・教員が共に伸びる。	①開始時刻とともにスクーリングが始まり、授業に集中している。 ②分かりやすいスクーリングのための工夫がされている。 ③生徒が学習環境に満足し、意欲的に学習に取り組んでいる。	・スクーリングは単位修得にとって重要な時間となるため開始時刻については徹底して順守していく。 ・スクーリングについては各科目によって規定回数異なるため、回数が少ない科目については更なる工夫が必要である。 ・全日制と同様にアイキューブカートの導入など生徒の興味関心を高める計画をしていく。	①50% ②38% 肯定的評価が 88%となった。単位修得に必要なスクーリングに対して担当教員の意識の高さが伺える。 肯定的評価が 80%となり、昨年より若干減少する結果となった。単位習得のためのスクーリングとならないよう、生徒の理解度も図っていくため教科指導についても検討していく。 肯定的評価が 92%の結果となった。学習成果を残すためにも学習サポートなどでも生徒の理解度を確認する。また、アクティブラーニングについては検討を継続していく。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①88% ②80% ③92%	1年間の学び直を通じ、基礎学力の定着した生徒に、標準的な学力を養うための、学習サポートを実施する。 英語検定の受験者数を増やし、準2級・3級の合格者を増やし、2級合格者を輩出する。 スクーリングを充実させるために学習指導計画書を作成するとともに、レポート作成については昨年度の結果をもとに改良を加える。
4	生徒一人ひとりの自己実現のサポートとしての進路指導を実践する。	①生徒一人ひとりにきめ細かい進路指導、学習指導がなされている。 ②学習活動が高校進学や大学進学に役立っている。 ③進路結果が生徒の才能の開花に結びついている。	・進路指導について1年次生からスタディサポートを導入するなど進路に対する意識を高めていく。 ・進路に対して個別の目標を定め、適切な指導をしていく。	①33% ②44% 肯定的評価が 77%の結果となった。進路についての意識を高めるため、学習活動を検討する必要がある。 通信制課程のスクーリング・レポートなどが学力の向上や大学受験に繋がる学習となるための検討が必要。また、学習サポートなどでの基礎学力の向上のための指導を継続する。 肯定的評価が 88%の結果となった。進路実現のために、教職員と生徒・保護者が面談などを実施しさらに意識を高めていく。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①77% ②54% ③88%	英語検定・漢字検定など各種検定の成果を進路結果に結びつける。 進路指導の動機づけとして大学訪問・専門学校訪問を実施し、高等学校卒業後の進路について明確な目標を定める。 卒業生の状況報告会（ホームカミング）を行い、在校生の進路実現への意識を高める。
5	保護者との密な連絡と意思疎通を図る。	①学校で問題が起こってもそれが解決している。 ②担任など一人で対応するのではなく、教職員全員で対応している。 ③学校全体で問題に取り組み、統一した指導ができている	・生徒指導面においては担任だけでなく全教職員で取り組んでいく。 ・兼務の教職員にも報告できるよう専任・兼任の打ち合わせ会を毎月1回実施し、生徒一人ひとりについての理解を深めるよう努める	①35% ②54% 生活指導については日ごろから教職員同士が連絡を取り合い、諸問題を解決する環境づくりに重点を置く。 ①38% ②58% 肯定的評価が 96%であり、さらに教職員が一丸となって生徒指導に取り組んでいく。 ①42% ②54% 肯定的評価が 96%である。学院全体で生徒指導について取り組んでいる結果である。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①89% ②96% ③96%	個々の生徒状況およびクラス状況を把握するための生徒状況報告を職員会議で実施し、教職員の共通理解を深める。 兼務の教職員の共通理解のために、専任・兼任の打ち合わせ会を毎月1回実施し、生徒一人ひとりについての理解を深める。

	P l a n		Do	C h e c k		Action
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆目標到達度 ◆実際到達度	◆今後の改善方策
6	生徒を大切にすこまやかで温かい生徒対応をする。	①生徒が笑顔で学校生活を送っている。 ②生徒が素直に教員の指導を受け入れる関係が築けている。 ③学校の中に生徒一人ひとりに居場所がある。	・通信制の指導にとって生徒を大切にすこまやかで温かい生徒対応をすることは最重要であることを認識し、細かな変化などを見逃さない。 ・電話連絡や手紙などを通じて保護者との連絡を密に行い管理職へ報告する。	様々な事情を抱える生徒が多い中、生徒の細かな変化などを見逃さないよう指導していく必要がある。 ①12% ②58% 生徒の評価は70%とやや低い。今後一層の指導体制を整備していかなければならない。 様々な課題を持つ生徒が多いことを踏まえ、次年度以降は90%以上の結果を残せるよう連携を深めていく。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①71% ②70% ③88%	生徒を大切にすための細やかで温かい対応を入学前の個別相談・入試相談・オリエンテーションから行うとともに、生徒一人ひとりの理解を深め、入学後の学校生活を円滑にする。 電話連絡や手紙などを通じて保護者との連絡を密に行い管理職へ報告する。
7	特別活動が生徒たちの自主的な活動の場になるよう指導する。	①生徒は特別活動に積極的に参加している。 ②生徒会活動がボランティアなど他者に目を向けられている。 ③特別活動が活発で、生徒も生き生きとしている。	・特別活動は生徒のコミュニケーション能力を高めたり、友達づくりのきっかけとなった。そのため一部の生徒のみが参加するのではなく、より多くの生徒が参加しやすいよう活動内容や事前指導などを早急に検討する。 ・保護者への連絡も時期を早くするなどの工夫をし参加率を上げる。	今年度は事前指導や活動内容の改善などを行ったが、昨年度と同様の55%という残念な結果となった。魅力的な活動が必要である。 学校説明会や特別活動パネル作成、清掃活動など生徒が奉仕活動できる機会を増やし58%となった。昨年度より数値には増えた。 ①69%②23%となり肯定的評価が92%となった。生徒が積極的に活動に参加するために保護者への案内やホームページにおいて活動内容の報告などを頻繁に行った結果だと考えられる。(昨年は66%) 次年度は生徒を積極的に参加させることが課題である。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①55% ②58% ③92%	ボランティア活動を計画・実施し、生徒の奉仕的精神を育成するとともに、地域福祉の推進に努める。 特別活動の内容を再検討し、生徒の興味・関心を踏まえた特別活動を計画する。 ホームページやパネル作成などを通じて特別活動への参加が、生徒の成長に繋がることを伝え参加者数の増加につなげる
8	大学入試改革や新指導要領への対応をいち早く取り組んでいく。	①情報の収集や対応がいち早くなされている。 ②新しい取り組みがなされ、スクーリングや進路指導が進化している。 ③学院全体の教育が系統的行われている。	・新学習指導要領への移行を行う上で、各教科での課題を明確にし、先行で実施できるようにする。 ・大阪府認可の通信制高校との連携を密に、新たな取り組みについて意見交換するなかで賢明学院にとってふさわしい学習を検討していく。	研修内容の伝達体制が肯定的評価が100%である。起立性調節障害の研修会や教部会など外部の研修に会において共通認識を持つためにも伝達を確実に行った。 教職員の意識は80%である。課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び(アクティブ・ラーニング)については具体的な取り組みについて、全日制の教員とともに研究をしていく必要がある。 英語については専任の教員2名にて取り組んだため多少進んだように思える。宗教については宗教部との連携が必要である。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①100%②80% ③88%	研修報告会を実施し、教員同士の豊かな関係性を基盤に、研修で得た知識・技術や経験を継承しながら新たな理論を生み出す。 不登校・起立性調節障害・発達障害など通信制の生徒指導に必要な学内研修を行う。 教員の相互支援関係を構築し、創造性豊かな指導により生徒の指導に繋げる。 大阪府認可通信制高等学校との連携を密に行い、賢明学院高等学校通信制課程独自の教育を計画し展開していく。

平成29年度（2017年度） 学校法人賢明学院 学校関係者評価の結果の報告書

委員名	小上 廣之	嶋田 豪洋	藤木 利典	久保 善見	長谷川 幸則
実施日	第1回 5月27日（土）	第2回 8月26日（土）	第3回 12月2日（土）	第4回 2月17日（土）	

	重点目標について	目標達成の為の取組について	到達度及び自己診断結果について	今後の改善方策について
幼稚園	① モンテッソーリ教育の意義を明確に開示すべきである。	① 専門家を招いて取り組み状況の成果を客観的に検証した事は評価できる。 ② 新幼稚園教育要領とモンテッソーリ教育の関係と、今後の取り組みについても、目標として設定すべきである。	① 達成状況 95%という高い評価を得られたことは素晴らしい。更なる高みを目指して取り組み、その結果を継続的に報告して欲しい。	① 棋士の藤井7段が受けた教育として再注目されている。他園との差別化のためにも引き続き研究を重ねて頂きたい。 ② 幼児期の英語教育の効果について明確にして頂きたい。
小学校	① 宗教教育の推進 ② 「安全」「衛生」は当然の義務で、目標として相応しくない。「食に対する感謝の心」を養ってほしい。	① 奉仕の心を育むためには、もっと具体的に教育内容を検討する必要がある。 ② いじめに関する対応事例などを明確にする方が、再発防止に繋がりやすいのではないか。	① 高学年の児童の意識が低い。賢明で長く学んだ児童ほど高い意識を持つようになってこそ、教育の成果を強調できるのではないかと。	① 創立者の言う「良い事」とは何かを、児童自身が考え、自分なりの答えに導くような機会を増やす必要性を感じる。 ② 他校の宗教教育と本学院における宗教教育はどのように違い、どこが優れているのか、明確に説明できるようにしてほしい。
中高	① 教科指導力の向上により、生徒・教員が共に伸びる。	① いち早く詰め込み式教育から脱却し、アクティブラーニングを取り入れている点は評価できる。 ② アクティブラーニングという手段を使っただけでは授業の質が向上したとは言えない。質が向上した具体的証明が欲しい。	① 新入試制度に素早く対応するために、一層の努力を期待している。 ② 新学習指導要領という言葉が漠然と使われているのではないかと。新学習指導要領のどの部分に対して具体的にどのように対応するのかという説明がほしい。	① アクティブラーニング以外に、カリキュラムの見直しや改善によって、これまで以上に質・量とも充実した教育の推進を望む。 ② 教育の専門用語については、別途注釈をつけて報告すべきである。
総括	<ul style="list-style-type: none"> ・カトリック教育の推進と、新大学入試制度への素早い対応が緊急の課題である。 ・支援を要請して頂ければ、保護者会は可能な限りそれに応える用意がある。教員と保護者、生徒、児童、園児がいっそう強い信頼関係で結ばれるよう、積極的な努力を続けて頂きたい。保護者の期待を絶対に裏切らないよう、教育活動に邁進していただくことを切望する。 ・評価を気にしすぎるあまり、教員に過度な負担が掛かり、肝心の教育が疎かになれば本末転倒である。評価のための評価にならないよう、注意をして頂きたい。 			